

滋賀県世代をつなぐ農村まるごと保全推進協議会
令和4年度農村まるごと保全技術研修会
2022年11月1日

農業用機械の安全な使い方 ～事故なく作業を続けるために～

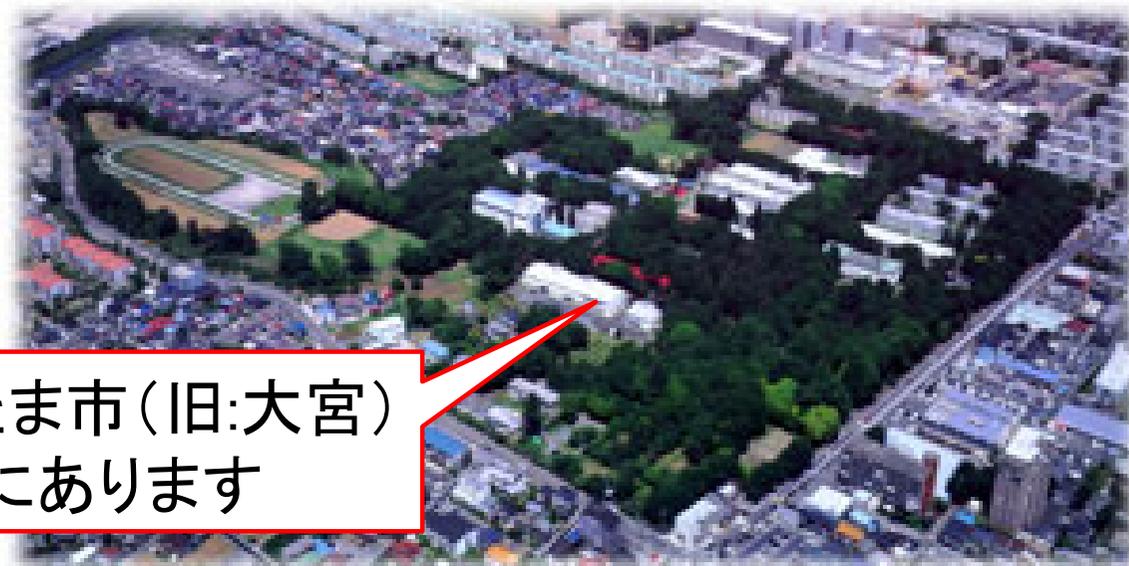
農研機構 農業機械研究部門
システム安全工学研究領域 予防安全システムグループ
皆川啓子

農機の研究や検査を行う
我が国唯一の専門機関です

優れた農機の普及、データ交換技術の国際標準化による我が国発の農機の国際優位性の確保、生産性と環境保全の両立、**農作業の安全性確保**等に対応するための研究開発と成果の社会実装に取り組む

【組織】

- ・所長
- ・研究推進部
- ・機械化連携推進部
 - 農作業安全担当**
- ・**安全検査部**
- ・知能化農機研究領域
- ・無人化農作業研究領域
- ・**システム安全工学研究領域**



さいたま市(旧:大宮)
にあります



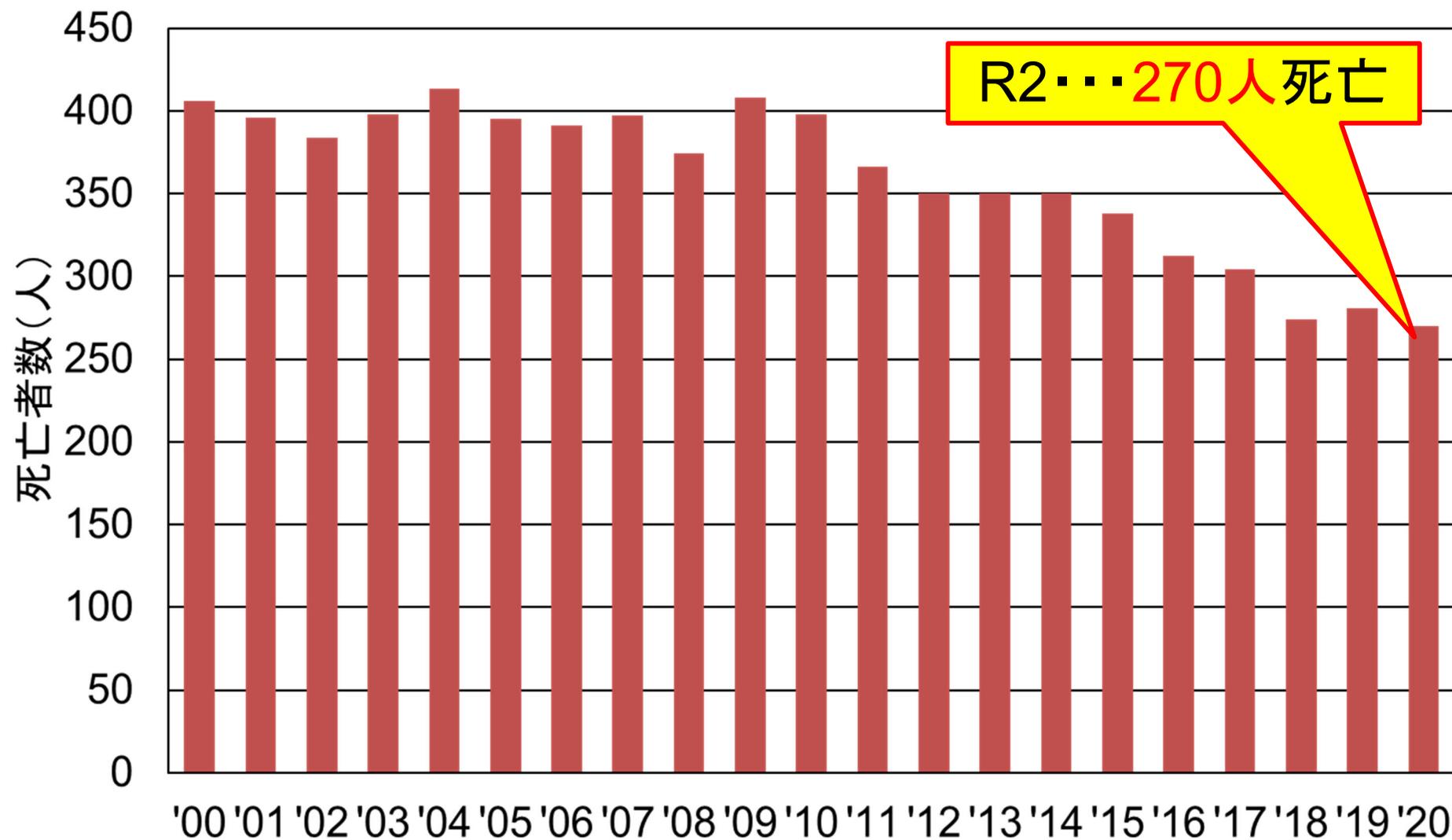
ショールーム(最新農機)



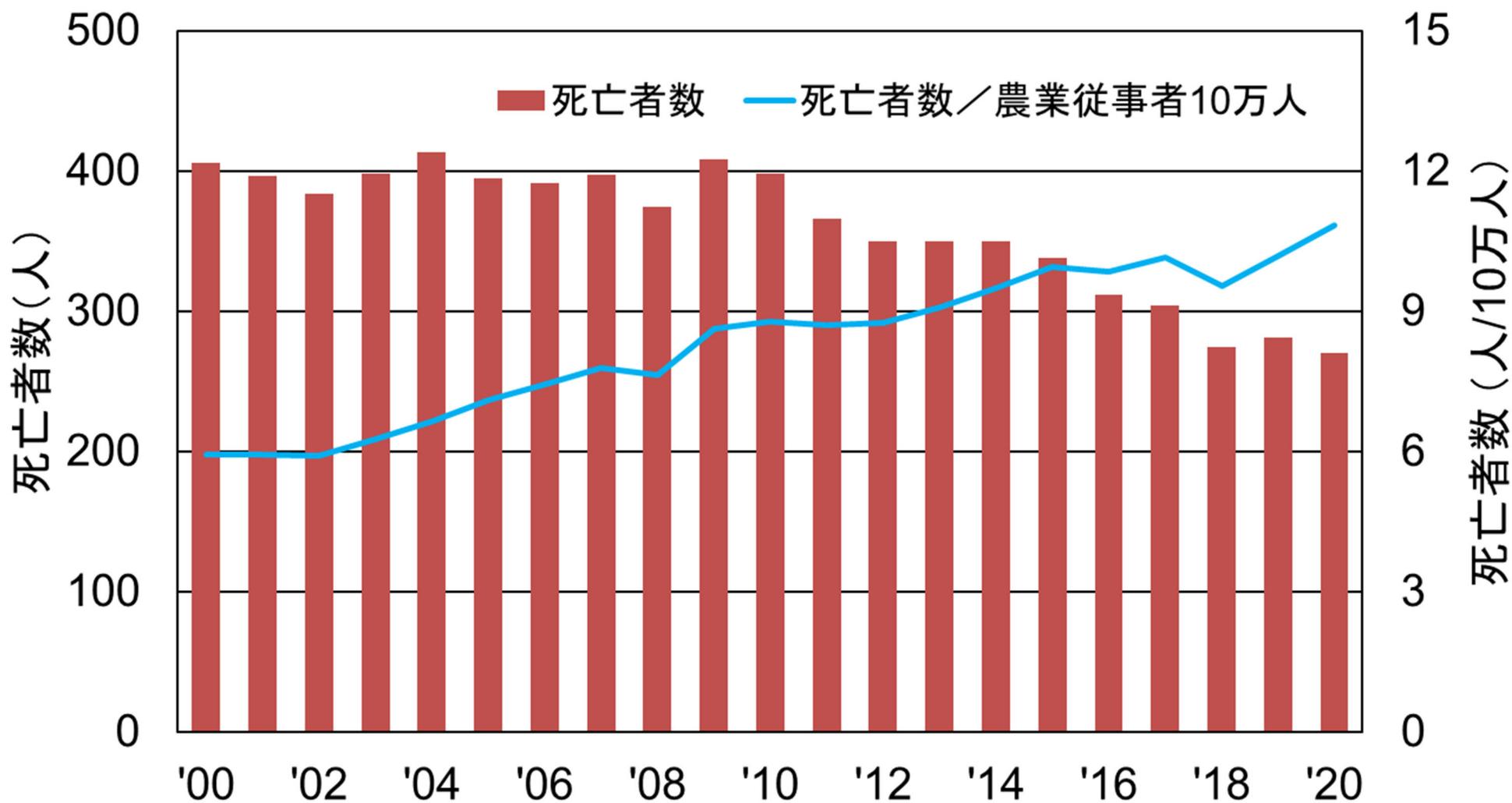
資料館(昔の農機)

⇒'14**機械遺産**登録

農作業事故の多さ



農作業事故の多さ



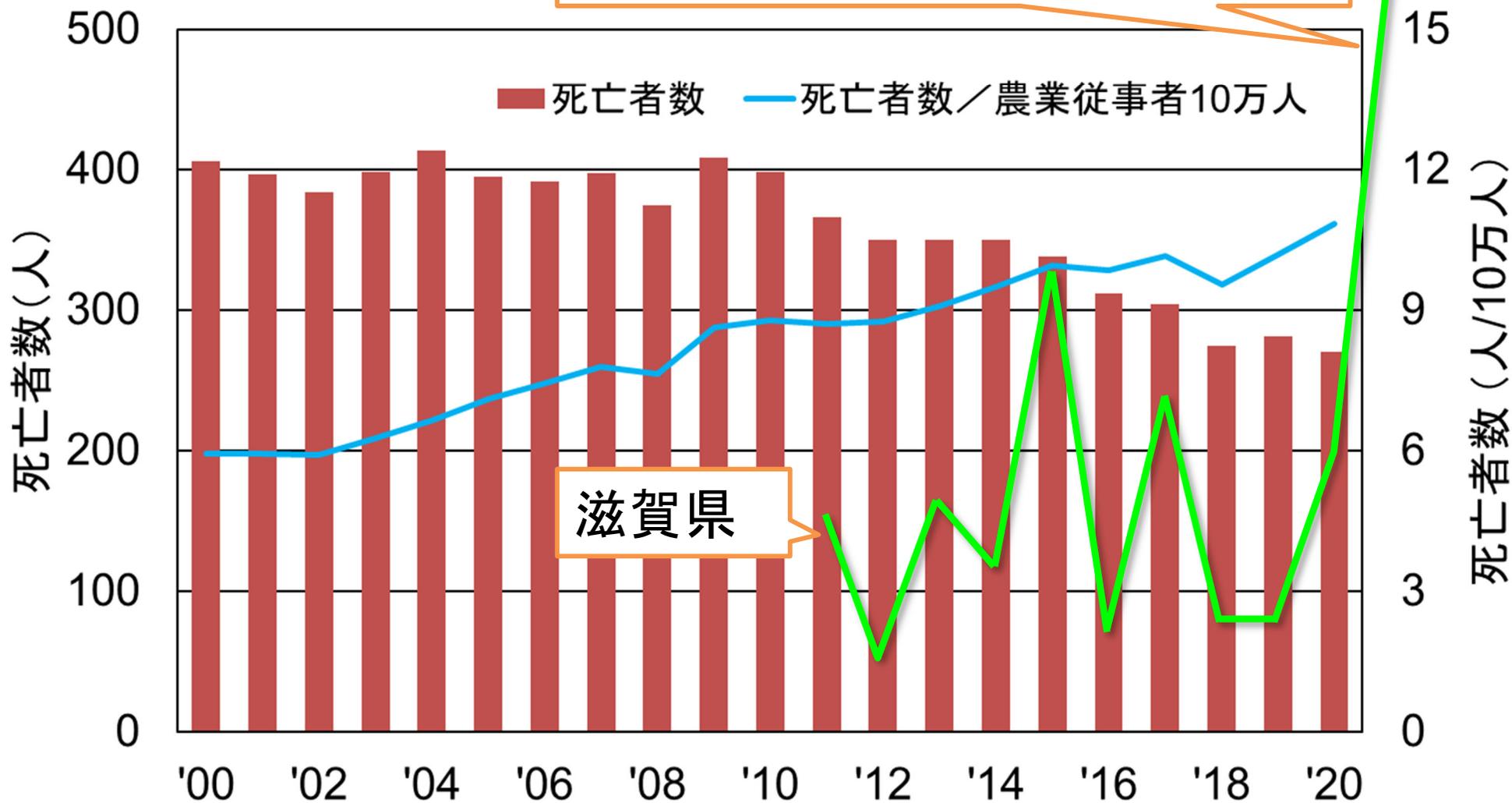
※農林水産省の農作業死亡事故調査報告、「農林業センサス」、「農業構造動態調査」に基づき作成。「農業就業人口」は、15歳以上の世帯員で年間1日以上自営農業に従事した者をいう。

農作業事故の多さ

滋賀県

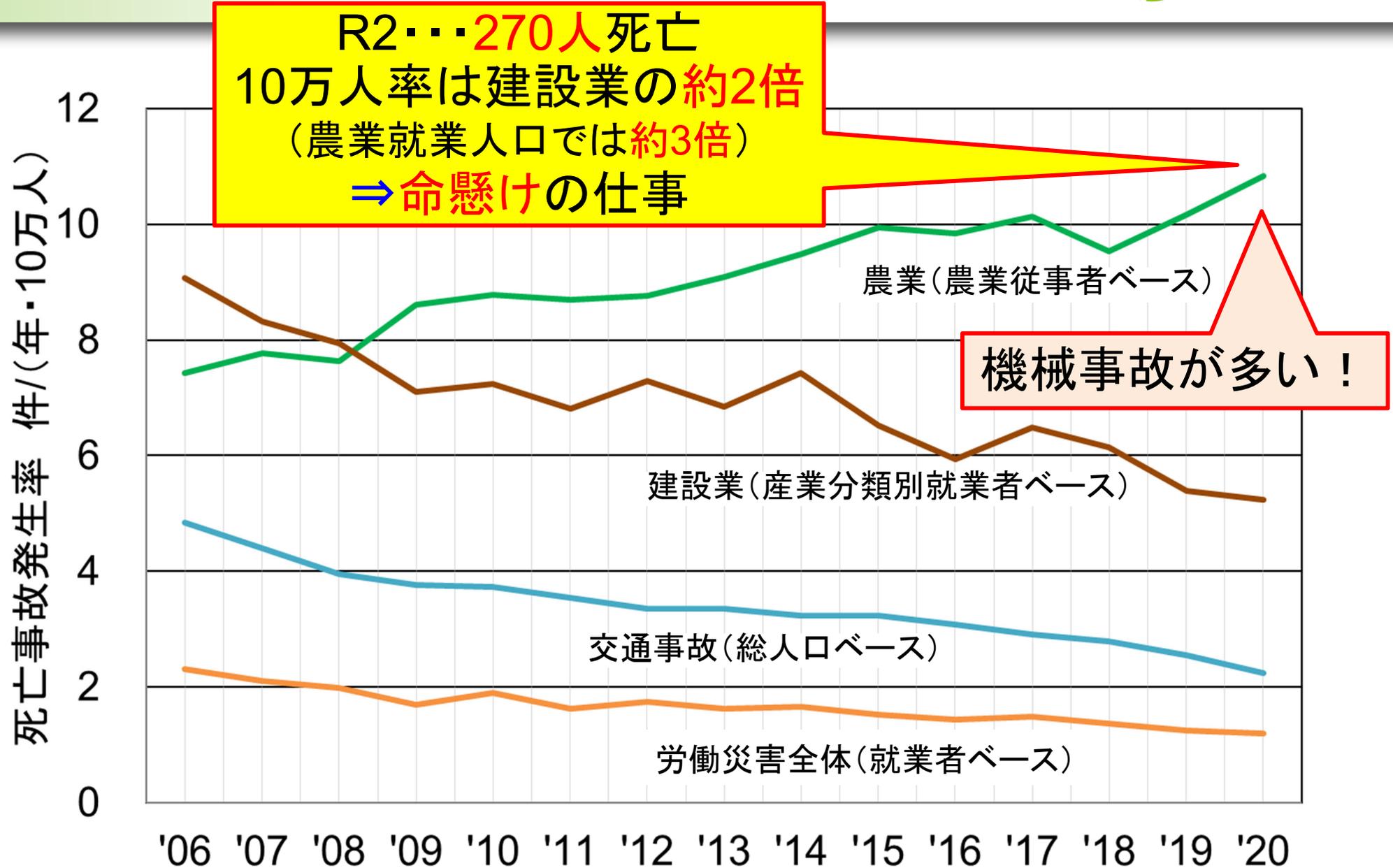
2020: 2人、2021: 5人

← 過去10年でワースト1



※農林水産省の農作業死亡事故調査報告、「農林業センサス」、「農業構造動態調査」に基づき作成。「農業就業人口」は、15歳以上の世帯員で年間1日以上自営農業に従事した者をいう。

農作業事故の多さ

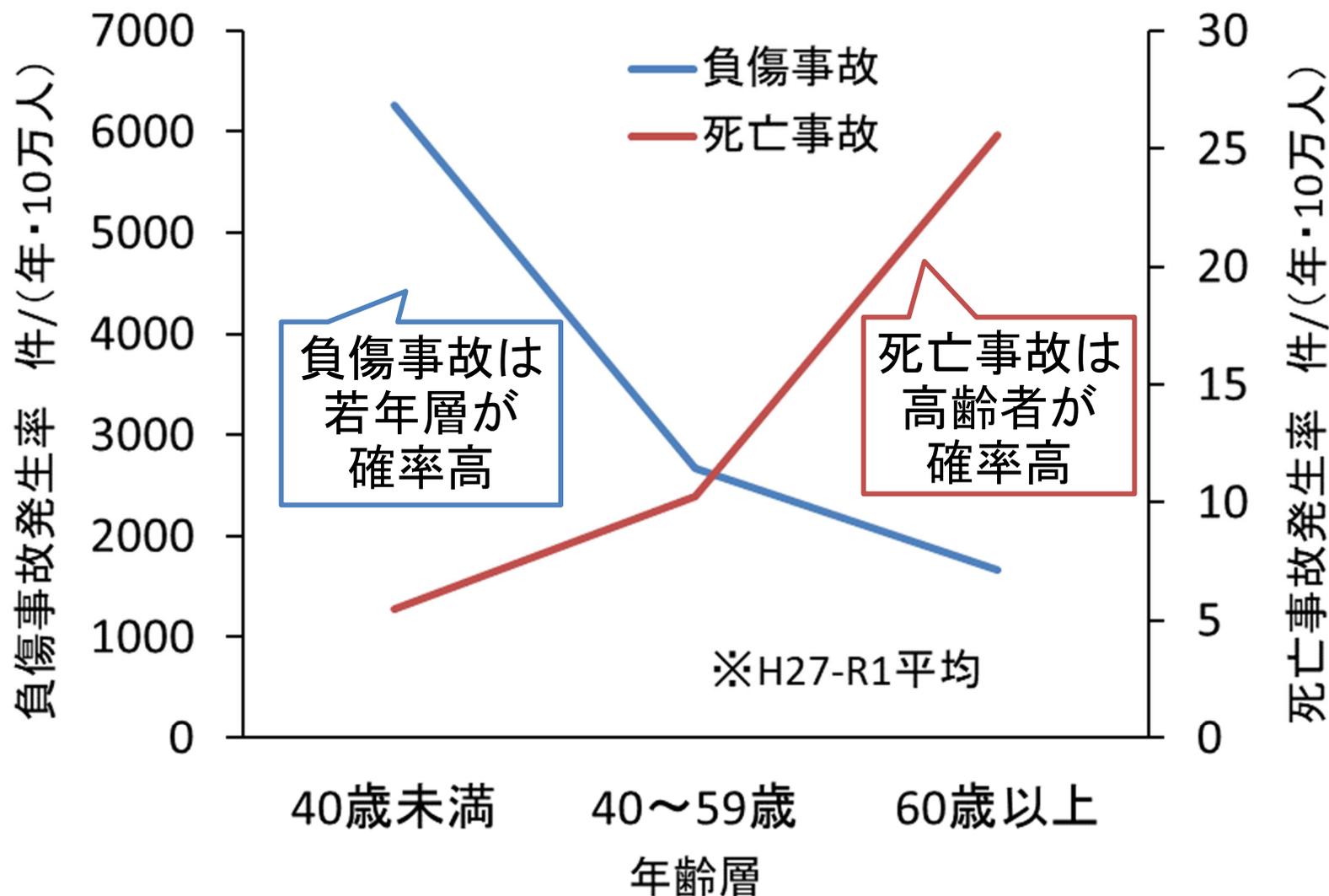


※死亡事故件数については、農業は農林水産省、交通事故は警察庁、労働災害及び建設業は厚生労働省調べ。農業従事者数は農林水産省、総人口及び就業者数は総務省統計局調べ。

事故が「他人事」の人はいない

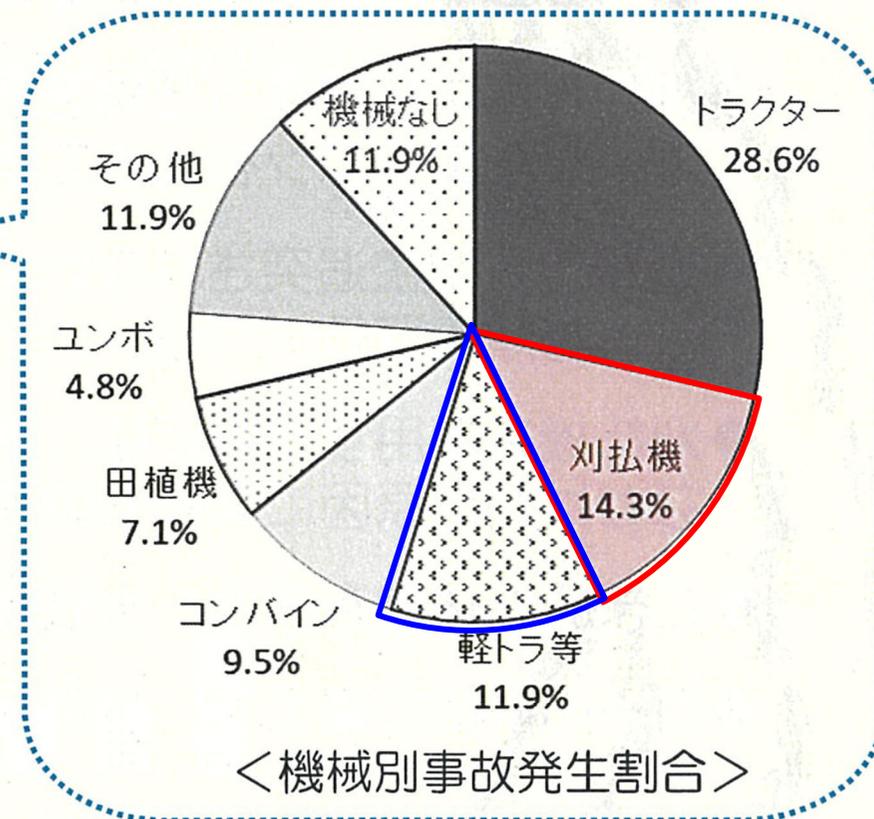
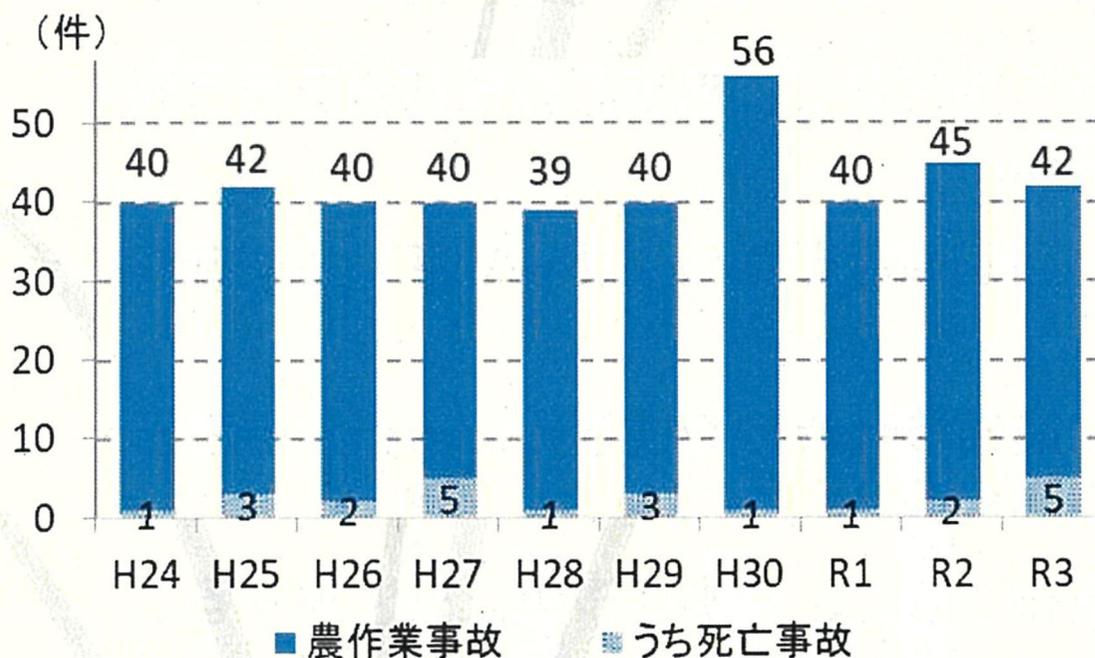
【北海道での年齢と事故の関係】

※北海道農作業安全運動推進本部データより



経験が少ない方が危険⇒現場や作業方法自体が危険！

死亡事故に限らず、農作業事故は年間平均42件発生 (直近10年)



＜県内における農作業事故発生件数の推移＞
※農作業事故実態調査結果以外に当課が把握した事故を含む

刈払機 + 軽トラ 26.2% < トラクター 28.6%

農村保全向上作業でも
使う機械

皆さんの活動報告の写真からも



どんな保全活動をしたい？

地域での保全活動で「こうできたら良いなあ」と思うものは？

- ・ホタルの住める環境にしたい
- ・コスモスでいっぱいになりたい
- ・用水路等を長持ちさせたい
- ・伝統ある田園風景を残したい
- ・多世代交流の場にしたい
- ・子供たちに自然を感じて欲しい
- ・そばを育てて食べるところまでみんなで一緒にやりたい etc.

では…

逆に「これだけは起きてほしくない！」と思うものは？

一緒に活動をしている人が事故にあう

きっとこの一択

例えば自分が活動する現場で...

- ・ どのような作業が危険なのか？ 現状はどうなのか？
- ・ 何をどう改善したらよいのか？

➡ 答えはどこに書いてあるのか？



どこでも有効な現場レベルの答えはあり得ない

・ 作目 ・ 地形 ・ 規模 ・ 経営環境 ・ 作業者 etc...

答えを考えるためのヒントなら、ある

- ・ まずは敵(事故事例)を知る
- ・ 次にどうすれば防げるか(対策事例)を知る

危険は様々なところに潜んでいる！



リンカーンの名言

「木を切り倒すのに6時間与えられたら、私は最初の4時間を斧を研ぐのに費やすだろう」



事故を防ぐためにも「準備」が必要

- ①まずは「敵（事故）」を知る
- ②これを踏まえて最適な変化（改善）を試みる

どこにでも当てはまる答えはない！

➡ 現場ごとに考える（労働安全の基本）

農村まるごと保全 共同活動の安全のしおり

共同活動前に安全確認を行い、
事故の発生を防止しましょう

高めよう
地域協力の
力!

安全確認チェックリスト

事前 チェック	 活動場所の下見をして 作業環境を確認しましたか。	 危険箇所については、 テープ等で印を付けたり、 作業マップにマーキング しましたか。	 参加者の年齢、作業の熟練 度等を考慮して作業計画(分 組、配置等)を立てましたか。
	 作業者は機具等の安全な操作 方法を習得しましたか。	 参加者は全員保険に入 りましたか。	 緊急連絡表は作成しまし ましたか。
当日 チェック	 参加者に危険箇所の説明 をしましたか。	 機具等を用いる場合、点検 は済みましたが。	 緊急連絡表の携帯や携帯 は済みましたが。

活動前日までに、現地の下見、打合せ、 緊急連絡先の確認を必ず行いましょう

- 活動中の事故を未然に防止するため、事前に活動場所の下見を複数名で行い、**危険な箇所**(急傾斜地、窪地やぬかるみ、段差、狭小地、急流の水路、危険物、危険な動植物等)のチェックを行い、危険物の除去や危険箇所をわかりやすく表示しましょう。
- 参加者の年齢、体力、作業の熟練度等や当日の健康状態を確認し、適切な作業分組・配置を行うとともに、**無理のない作業計画**を立てましょう。
- 緊急時に備え、**緊急連絡表**を作成し、全員で確認しておきましょう。
- 緊急連絡先の確認
 - ・ 最寄りの医療機関(複数)
 - ・ ご家族の連絡先
 - ・ 保険会社



活動を行う前に、必ず保険に入りましょう

- 共同活動を行う際には、必ず**保険**に入りましょう。近隣の保険会社に相談してみましょう。
- 活動日の1～2週間前までに手続きが必要なので、早めに参加者を決めるようにしましょう。
- 1日あたり数十円～数百円のものまで様々な保険があります。保険料は、多面的機能支払交付金による支援の対象になります。

活動に当たっては、参加者一人一人が事故 防止の意識を持つことが大切です

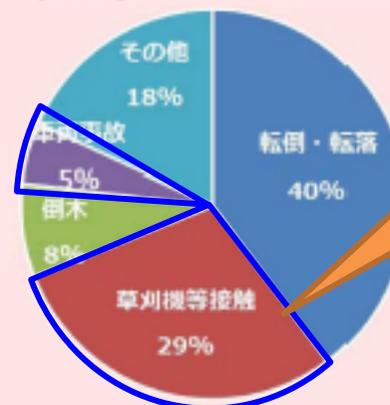
- 活動当日は、事前にチェックした危険箇所等の情報を参加者全員に周知し、**注意喚起**を行いましょ。
- **声かけ**をしましょう。
- 緊急連絡表を見やすい場所に掲示したり、通報担当者が携帯するようにしましょう。

しおりで事前の安全確認チェックポイントを
明確に案内

■ 事故の傾向 (平成24年度～平成30年度の発生状況)

平成24年度から平成30年度に181件の事故が農林水産省に報告されています。発生原因では、転倒・転落(40%)及び草刈機等の接触(29%)で過半数を占めています。

また、樹木の伐採を行う場合や重機を用いる場合は、重大な事故につながる恐れがありますので、特に注意が必要です。



事故原因の内訳 (%)

草刈機等 29%
車両事故 5%

活動中の事故は、**草刈りや雑木伐採時、車両等機械操作中**に多く発生しています

農作業事故と同様の傾向

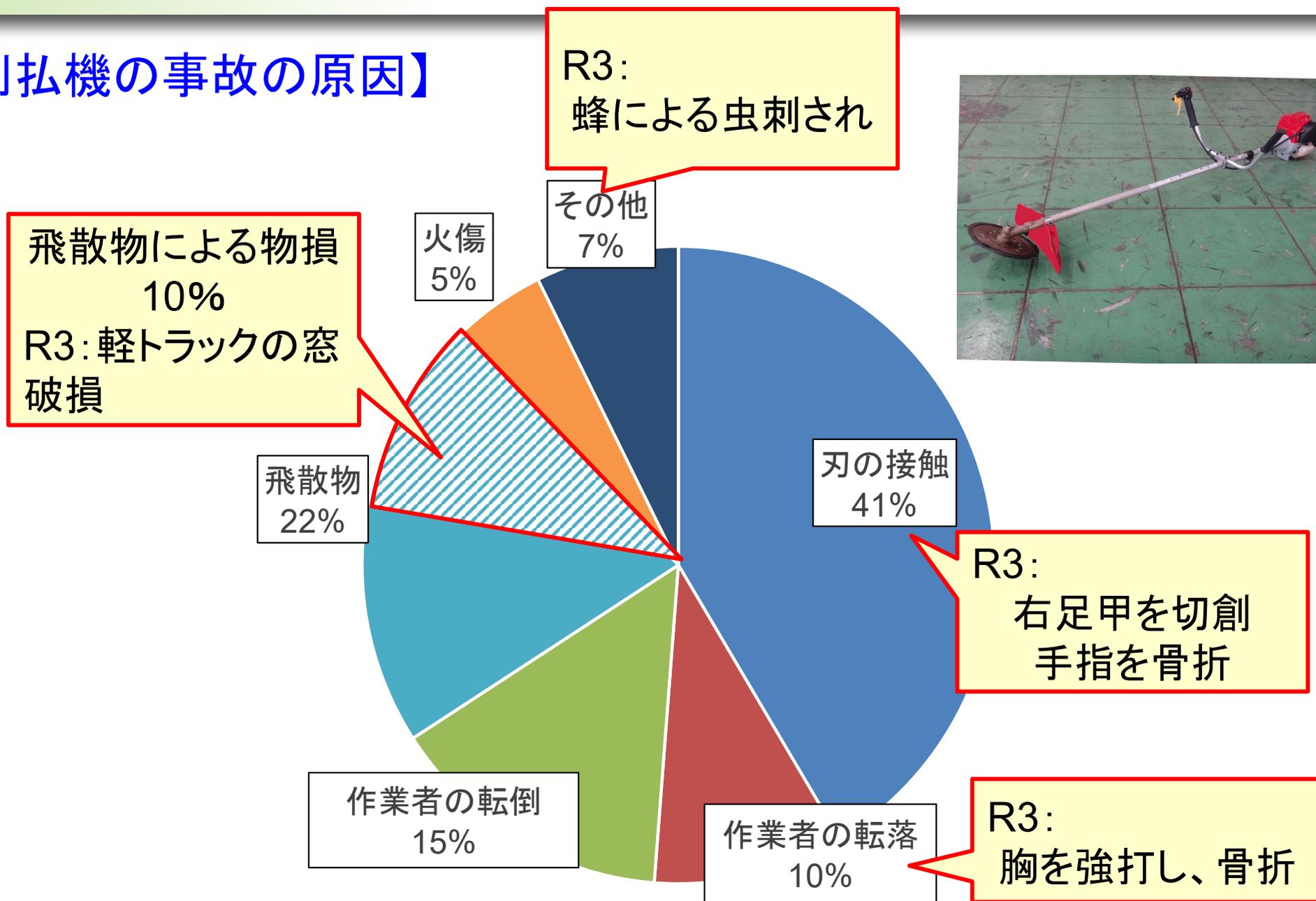
草刈作業中の留意点

- 1. 防護の徹底**
 - ・草刈機を使用する際は、ヘルメットや防護メガネ、手袋などを着用しましょう。
- 2. 障害物の除去等**
 - ・事前に、草刈範囲の空き缶や石、木片などを取り除いておきましょう。
 - ・除去できない木や障害物がある場合は、その周辺は草刈機を使用せず、鎌等で草刈りしましょう。
- 3. 草刈機の点検・整備**
 - ・刈刃のひび割れや欠け等がある場合には、新しい刈刃と交換しましょう。
 - ・刈刃が確実に固定されていることや、飛散物保護カバーが装着されていることを確認しましょう。
- 4. 草刈機の安全な使用**
 - ・安全な使用方法を修得した作業者が行いましょう。
 - ・火災の恐れがあるので、エンジンを始動する場合は、給油場所から3m以上離れましょう。
 - ・作業を中断する際や移動する際には、エンジンを切って刃の回転が止まってからにしましょう。
- 5. 作業間隔の確保**
 - ・複数人で作業を行う場合は、15m以上間隔を置き、接触事故を防止しましょう。
- 6. 休憩の確保**
 - ・振動とエンジンの騒音で想像以上に疲労がたまるので、時間を区切ってこまめに休憩を入れましょう。
- 7. 草刈業者への合図**
 - ・草刈機は騒音が大きいため、作業者に声をかける際には、鐘や笛を用いて遠くから合図をしましょう。



皆さんがよく使う機械をみると・・・

【刈払機の事故の原因】



(H25-H29報告分)

【刈払機の種類】



U字ハンドル
(肩掛け型)



ループハンドル
(背負型)

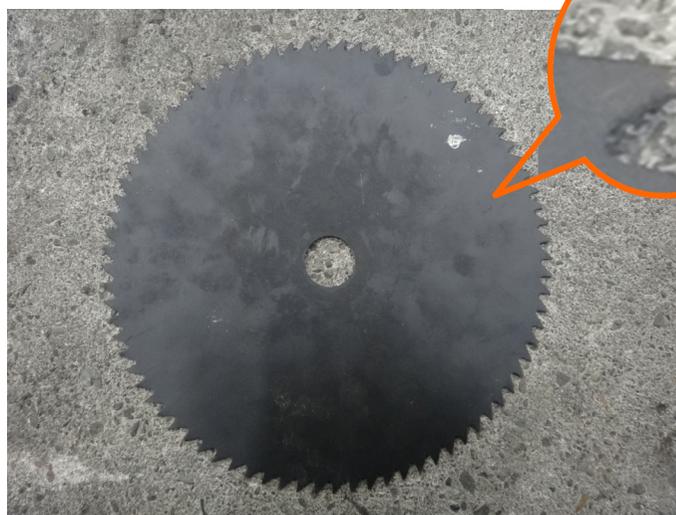


2グリップハンドル(肩掛け型) 17

【刈刃の種類】



金属刃(チップソー)



金属刃(鋸刃)



ナイロンコード

【概要】

肩掛型の刈払機で水路法面の草刈作業中、土砂交じりの地面に足を滑らせ、回転している刃が自らの足に接触

⇒足の裂傷



(法面の草刈り)

- ・活動項目：水路の草刈り
- ・作業内容：水路法面の草刈り作業
- ・事故概要：水路法面を上部から下部方向へ向かって草刈り作業中、土砂混じりの地面に足を滑らせ、草刈機の刃が自らの足へ接触。
- ・被災状況：足の裂傷（全治3週間）
- ・発生原因：安全な作業方法の周知不足（作業環境の不備）。

事故事例：土手から転落（刈払作業）

【概要】

農道脇の急な土手を草刈作業中、刈った草に右足を乗せたところ、滑って下の排水路に転落⇒機械破損、水深次第で溺死の恐れ

作業方法

身体を下に向けて作業
(刈払機だと仕方がない)

人

危険な作業への慣れ

環境

急斜面(42°)

環境

水深150cm
水がなければ
骨折等の可能性も



農業現場でよくある転落は・・・



出典：福島県農業総合センター農業短期大学校
「農作業安全啓発DVD」

機械・環境・道具の見直し

【刈払機の場合・・・】

下向きに作業すると転落しやすい

⇒ 等高線作業が基本

⇒ あまり急だとできない・・・



ポイント:

機械・環境・道具を見直す

例) 傾斜地対応草刈機
法面に小段
腰ベルト(刃の接触防止)
スパイク



正しい身体の向き(等高線作業)



正しく防護を！

フェイスガード
又は防護めがね

防振手袋



刈刃カバー

腰ベルト(後述)

すね当て

飛散物防護カバー

安全靴



トリガ式スロットル



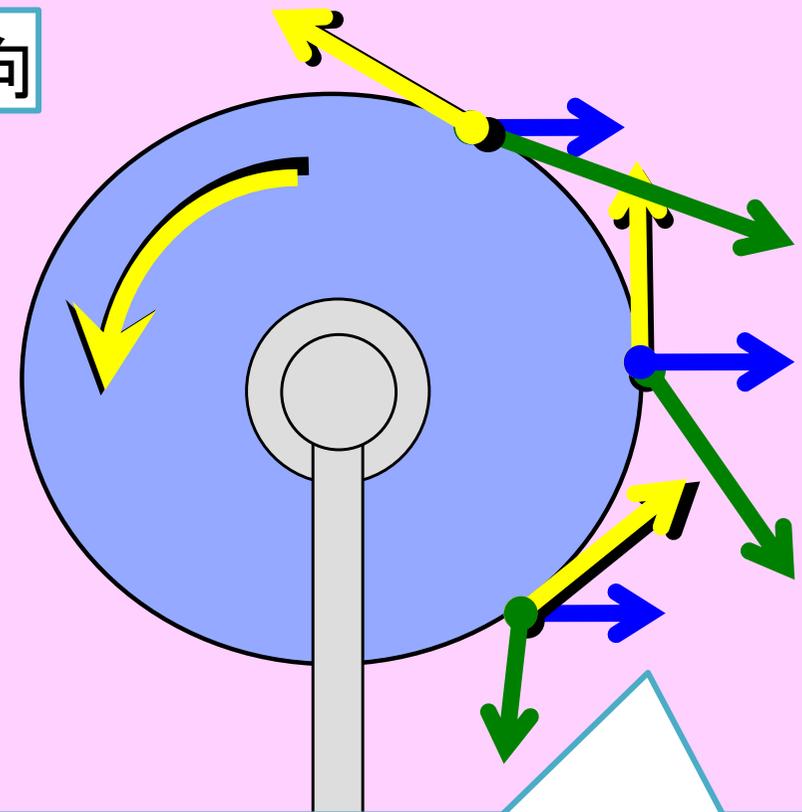
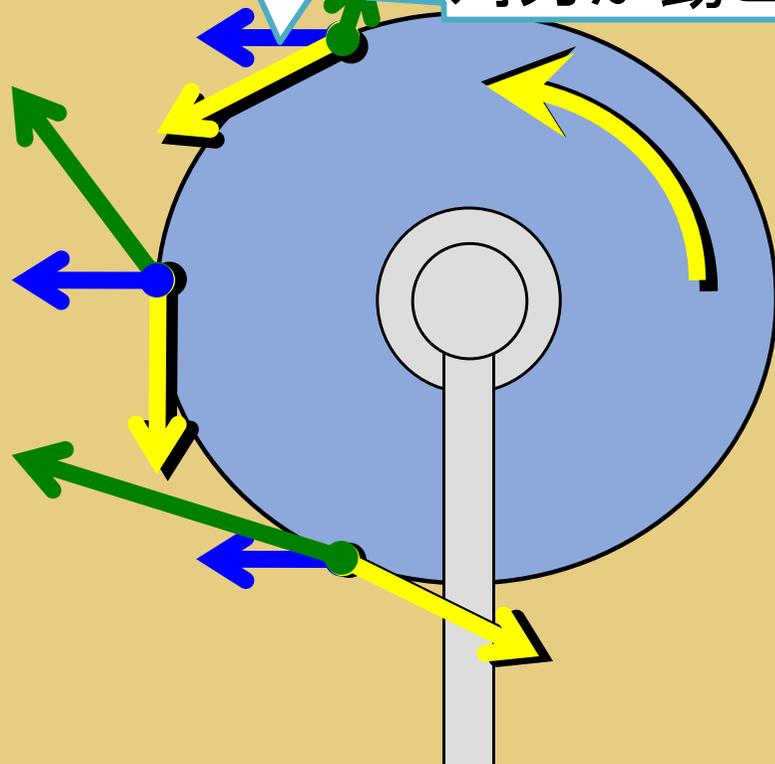
刃との接触：キックバック

刈刃を左方向へ動かすとき

刈刃を右方向へ動かすとき

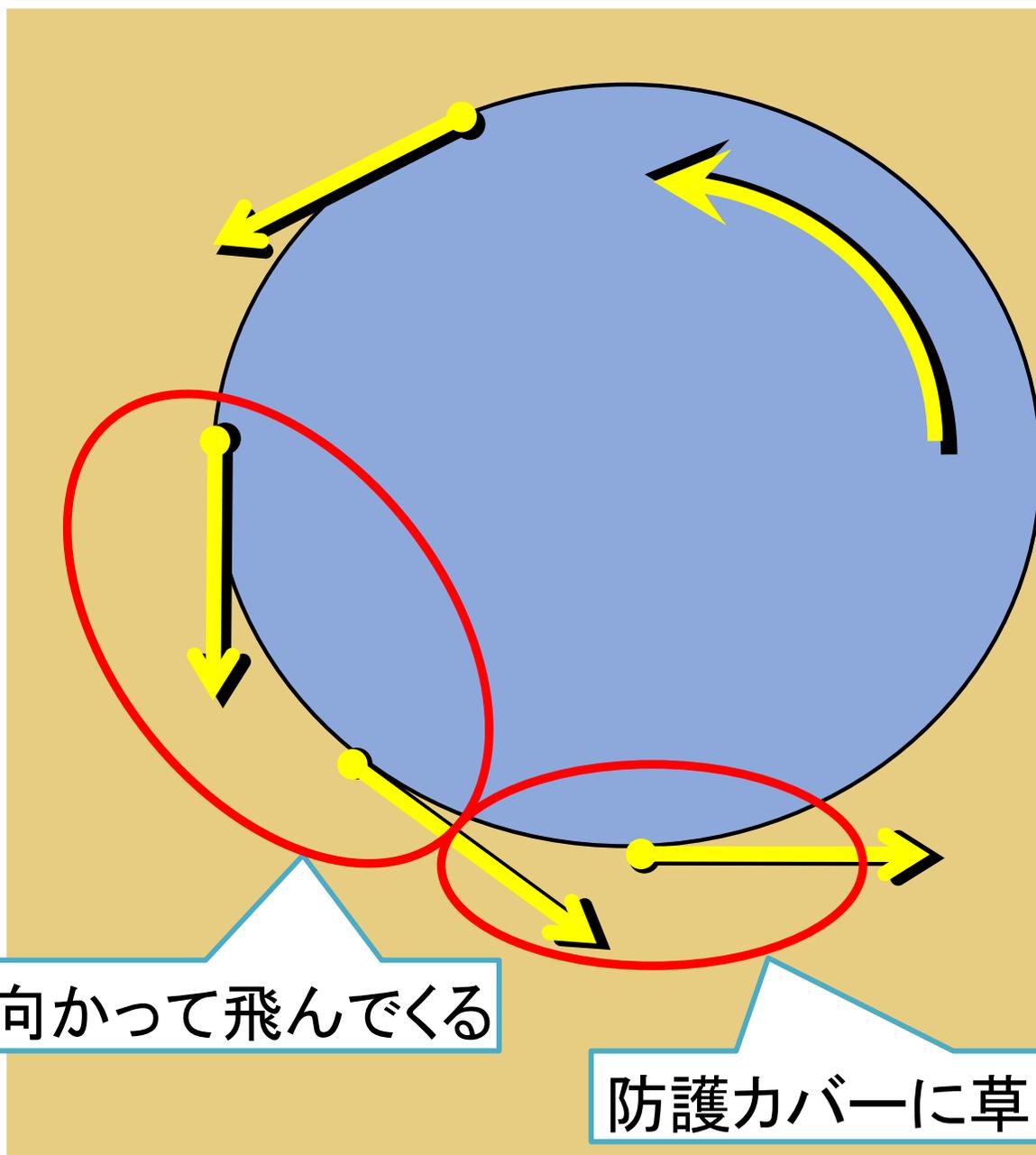
刈刃を振る力の方向

刈刃が動こうとする方向



右側では絶対に刈らない！

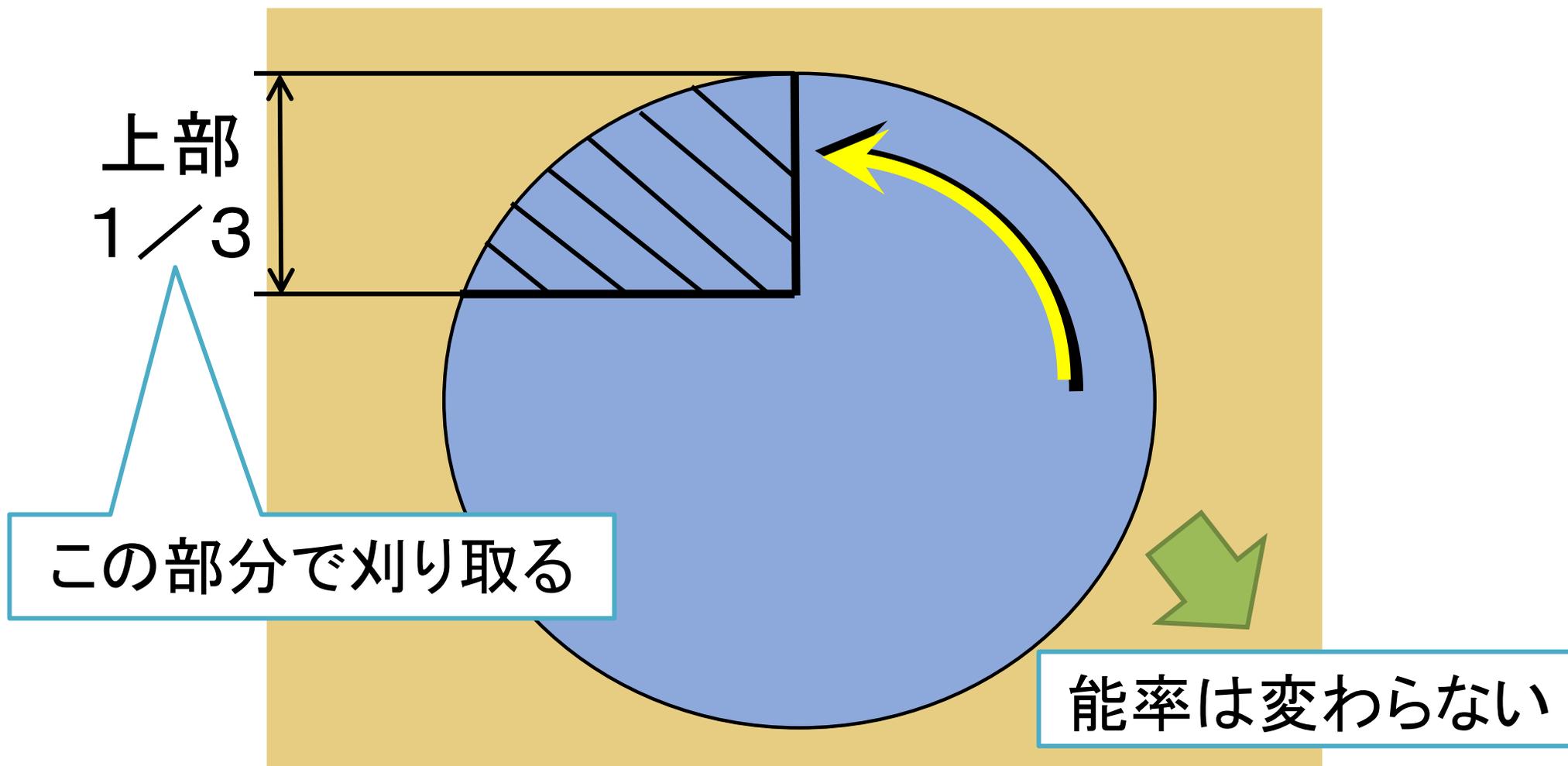
刈刃は自分の方へ飛んでくる
背負式は特に注意！



ずらした防護カバー



刃の左側・上部1/3を使う
刃は右から左へ動かして刈る



共同作業の時は十分離れて！



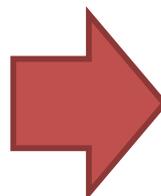
15m以上
離れるのが
望ましい

5m



危険区域

不用意に近づくと…



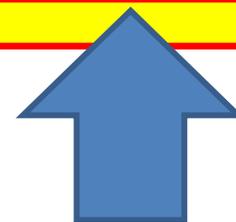
呼びかけは前から！
連絡手段を決めておく



出典：福島県農業総合センター農業短期大学校
「農作業安全啓発DVD」

【機械を使っていない人は】

- ・機械が動いている間は、**原則近づかない**
- ・機械を使っている人には後ろから近づかない
- ・機械が止まるまでは、刈った草を集めに行かない

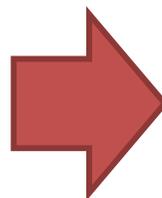


【こんな事例も】

作業を早く終わらせようと刈払機で作業をしている人が通り過ぎたところの草を集めに近づき、後ろから人が来ていると思っていなかった作業者が振り返ったときに接触

大事故

エンジンを止めないと…



つまり除去ではエンジン停止！



出典：福島県農業総合センター農業短期大学校
「農作業安全啓発DVD」

事故事例：欠けたチップが目に

【概要】

短時間と思い、ゴーグルをせずに道端の草を刈っていたとき刈刃のチップが右眼に ⇒ 3週間入院



作業方法

保護めがねなしで作業

人

短時間だからつい＝慣れ

機械・施設

飛散物防護
カバーなし

【概要】

水路脇の雑木（直径約30cm）をチェーンソーで伐採中、雑木が地上2m付近で破断し頭部を直撃⇒死亡



（雑木の伐採）

- ・活動項目：水路の草刈り
- ・作業内容：雑木の伐採・除去作業
- ・事故概要：単独で水路横の直径約30cmの雑木をチェーンソーで伐採中、作業面反対側への切り込みを行わなかったために雑木が地上2m付近で破断し、頭部を直撃したものと推定。
- ・被災状況：重体の後、死亡
- ・発生原因：ヘルメットの非着用。安全な作業方法（作業面反対側への切り込み）の周知不足。

- ・チェーンソーは**特別教育を受けた人**が行う
- ・ヘルメット、チャップスを装着する



事故事例：刃と接触（チェーンソー）

【概要】法面の伐採作業中、雑木が隣のほ場に倒れかけたため、左手で自分のほ場側へ支えつつ、右手のチェーンソーを足元に置こうとした際、止まる前の刃が右膝下に接触 ⇒ 右膝下切創

人

木が倒れそうになって焦り

機械

慣性ですぐには止まらない

作業方法

防護ズボンでない

環境

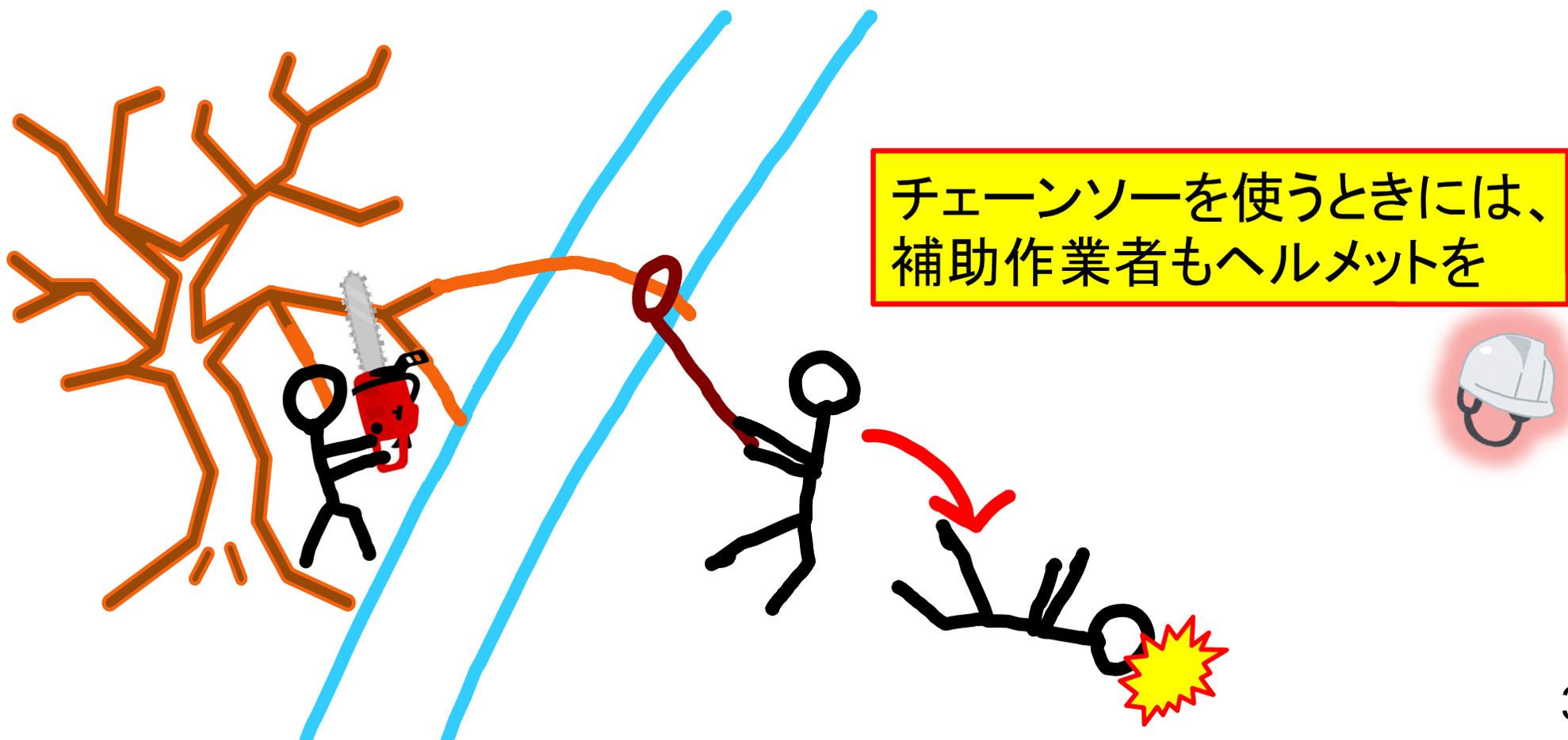
足元が傾斜
日没で暗い



雇用の場合は
防護ズボンやチャップス
着用が義務化
⇒ それだけ危険！
ということ（農業も同じ）

【概要】

水路の上に張り出していた枝を仲間がロープで強く引っ張り固定し、のこぎりで枝を切っていたところ、枝が切れた拍子に負荷が抜けロープを引っ張っていた仲間が後方に転倒⇒**頭部打撲により死亡**



事故事例：タイヤショベルから転落 (保全活動のしおりから)

【概要】

タイヤショベルのバケットに乗り、高さ約1.5mで伐採作業中、誤って転落し頭部を負傷⇒死亡



- ・活動項目：農道の草刈り
- ・作業内容：雑木の伐採・除去作業
- ・事故概要：タイヤショベルのバケットに乗り、高さ約1.5mで伐採作業中、誤って転落し頭部を負傷。
- ・被災状況：死亡（頭がい骨骨折）
- ・発生原因：重機の不適切な使用方法、ヘルメットの非着用。

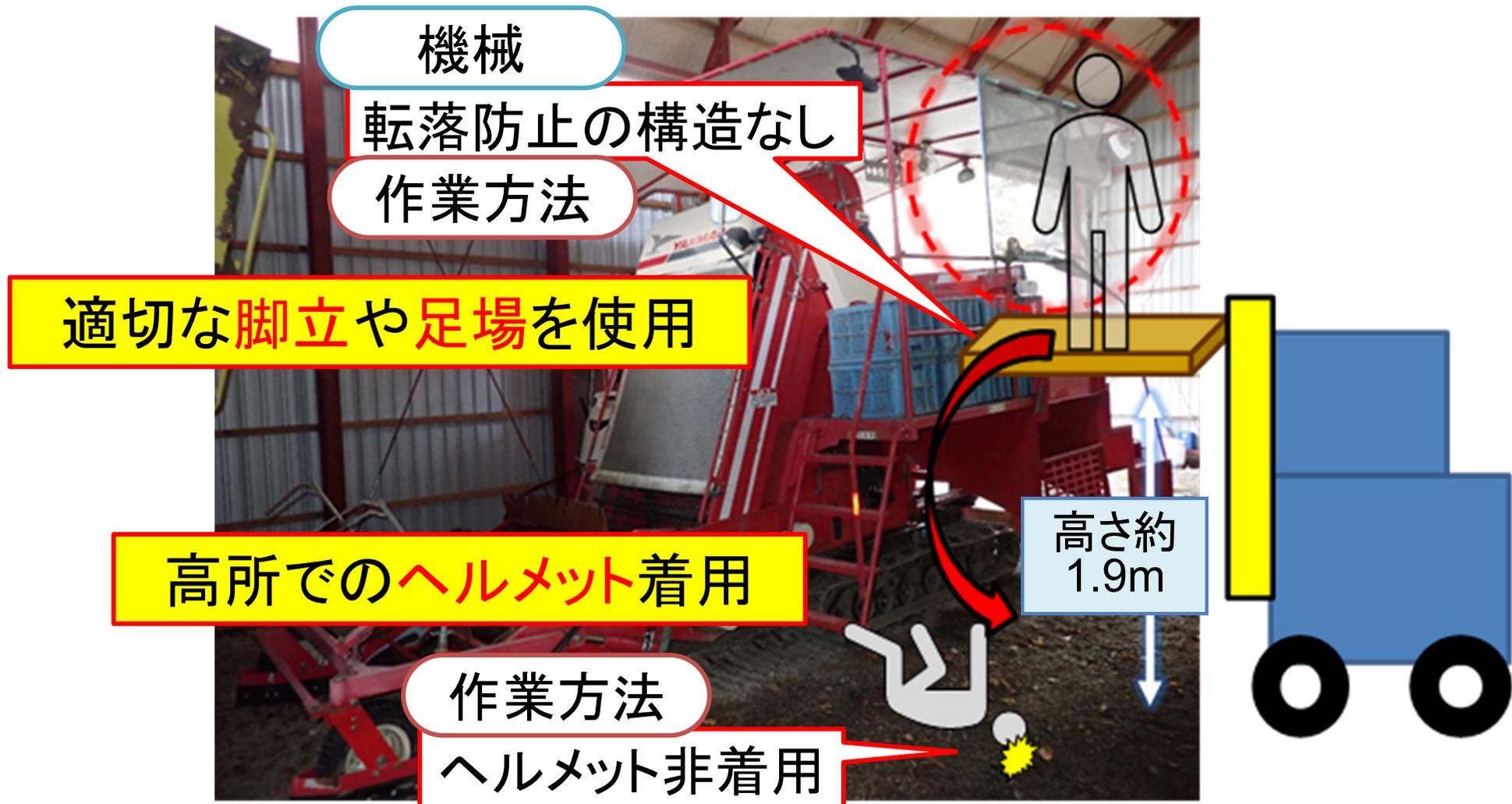
- ・タイヤショベルを高所作業車代わりに使った**目的外使用**
- ・高所での作業時は**ヘルメット**



【概要】

フォークリフトで上げたパレットに乗って、オニオンピッカの作業台に
日よけ・ほこりよけを張る作業中、足を踏み外して転落

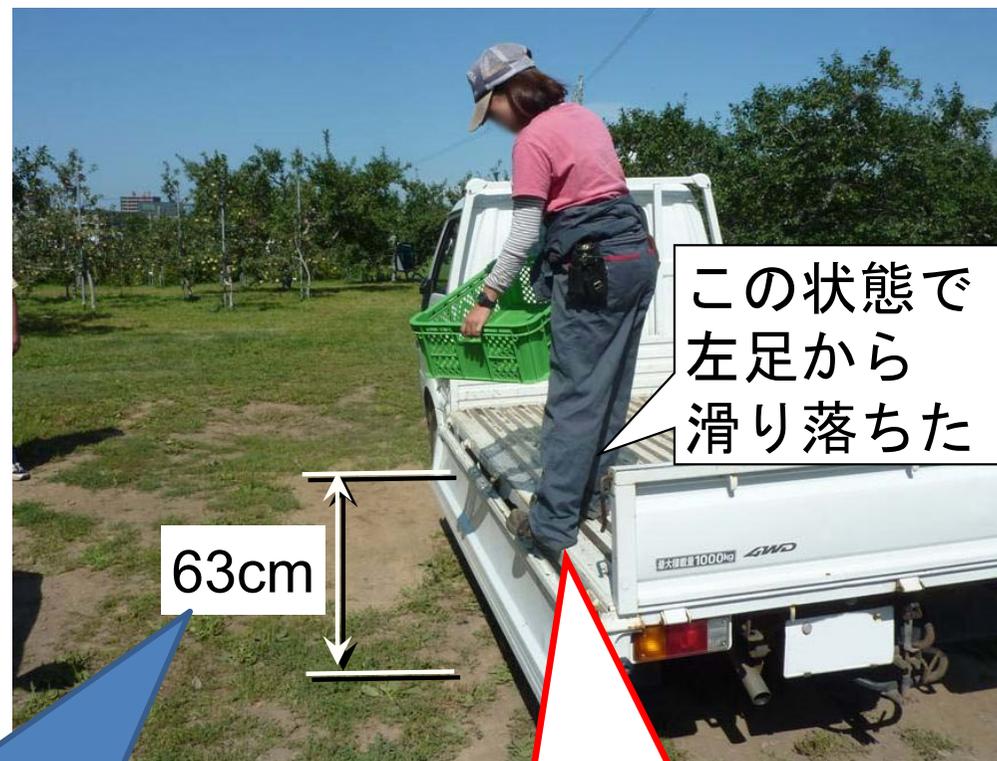
⇒硬膜下血腫



事故事例：トラック荷台から転落

【概要】

野菜を入れたコンテナを軽トラックの荷台から降ろそうとして、足を滑らせ転落⇒左ひじ挫傷



軽トラックの荷台からの転落でも大けが

身体のサイズに合った服装で作業

事故事例：トラック荷台から飛び降り

【概要】

トラック荷台を清掃後、荷台から飛び降り
⇒右足アキレス腱断裂



「ステップで乗降」ルール化

事故事例：トラック荷台から転落

【概要】

4tトラックの荷台から横に寄せたポテトプランタに肥料と種芋を供給後、降りようとした際にバランスを崩して、上半身から落下 ⇒ **肺挫傷**



例)ステップ
活用

1mは「一命取る」
高所の危険性の認識と対策を！

高さ2mから胸部に
約80kgの固い物体
を落とされたのと
同じ衝撃！

被災者重心高さ
推定約2.0m

出典：厚労省・安衛研

推定約1.1m

ポテトプランタ

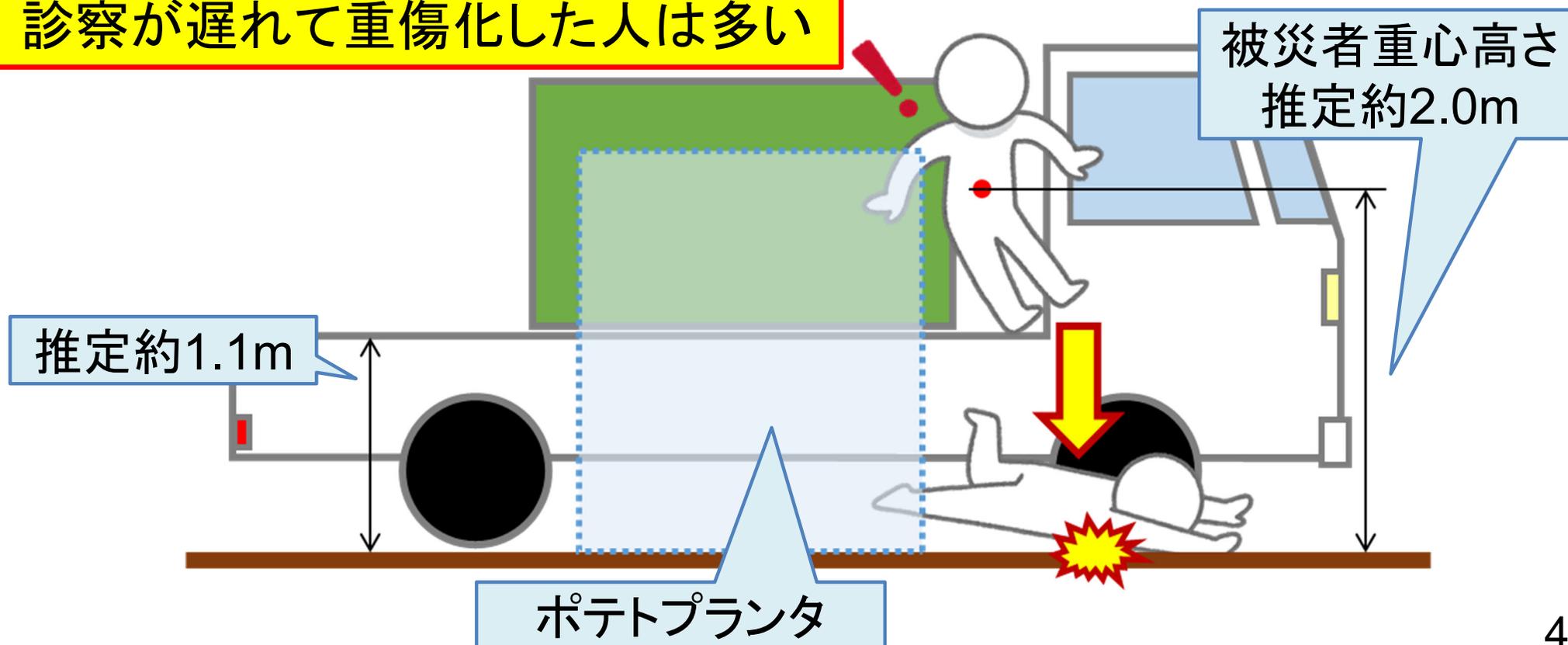
事故事例：トラック荷台から転落

【概要】

4tトラックの荷台から横に寄せたポテトプランタに肥料と種芋を供給後、降りようとした際にバランスを崩して、上半身から落下 ⇒ **肺挫傷**

どんなけがでも軽く考えず、
すぐ医者へ！
診察が遅れて重傷化した人は多い

そのまま我慢して作業
⇒夜に**重傷化**⇒**かつ血**



例：作業環境の改善

○危険箇所をなくす

段差・凹凸 → 平らに
狭い・細い → 広く
暗い → 明るく
雑然・散乱 → 整理整頓
等々

コストをかけずに
できることはある！

まずは**できるところから**

最終目標：**本質的な改善**を目指す

安全な現場＝作業しやすい現場＝活動もしやすくなる

いきなり100点は難しい
少しずつでも**改善のPDCAサイクル**を回す

事故を未然に防ぐためのアプローチ

例：機械の改善

一定の安全性を確保した機械を選ぶ！

～2017

2018～



古い適合機は
基準も古い！



農研機構ウェブサイト 「農作業安全情報センター」

- 事故事例、啓発情報、安全な作業方法など
- クイズ形式で安全作業を学習できるeラーニングも
- 農機研サイトから or 「農作業安全」で検索

農作業安全

検索

新コンテンツ更新！
「対話型研修ツール」
「事故事例検索」



The screenshot shows the homepage of the ANZEN (Agricultural Notice for Zero-accident Engineering) website. The header includes the ANZEN logo and the text '農作業安全情報センター 安全で快適な農作業を目指して'. There is a search bar and navigation tabs for 'ホーム', '機械別', '作業別', and '作物別'. The main content area features a large banner with a landscape image and text: '農業はもっとも死亡事故発生率が高い産業になってしまっています' and '安全性の高い農業機械を正しく使用すれば事故は防げます'. Below the banner is a 'Column' section titled '「農作業安全情報センター」20周年に寄せて' with a '続きはこちら' link. There are four 'Library' sections, each with a list of items and a 'Click' button: 1. '農作業事故について知りたい' (with sub-points: 死亡・負傷事故の動向, メーカー等からの事故情報, イラストで見る事故事例, 事故事例検索); 2. '安全な農作業方法を知りたい' (with sub-points: 農機安全eラーニング, 農作業現場改善チェックリスト, 農作業安全ポイント, 対話型農作業安全研修ツール etc.); 3. '安全な農業機械を選びたい' (with sub-points: 農業機械の安全装備いろいろ, 安全キャブ・フレームの有効性, 安全チェックを受けた農業機械, トラクターと作業機のマッチング); 4. '研究紹介・関連サイトなど' (with sub-points: 農作業安全研究の紹介, 農作業安全に関するサイト集, 用語の説明). On the right side, there is a 'ライブラリー' section with a list of links: '農機安全eラーニング', '農作業安全コラム', '農作業事故について知りたい', '安全な農作業方法を知りたい', '安全な農業機械を選びたい', '研究紹介・関連サイトなど'. At the bottom, there is a 'NEW 新着情報' section with a date '2022/06/01' and text: '「事故事例検索」、「農作業安全に関するサイト集」を更新しました。' and '2022/06/01 5月の安全コラム「『農作業安全情報センター』20周年に寄せて」を追加しました。'

例)ある若手生産者

パート従業員とは年1回のみの共同作業。

だから、同じ人達であっても必ず毎年作業手順を確認していますよ。

その上で、急がなくてよいので安全最優先で作業してほしいと伝えています。

そのためにも、雇っている側が慌ただしかったり気が立っていてもダメなので、そうならないように気をつけていますね。

リーダーがしっかり姿勢を示している



関連事故事例はこちらから

ウェブコンテンツ「事故事例検索」 （「農作業安全情報センター」内）

作目：全作目

Q 事故形態 **全て** 機械用具名称 **全て**

個別報告No	作目	事故形態	機械用具名称	機械用具細	作業種類	発生場所	事故状況
1	畜産	人の転落・転倒	用具（その他）	搾乳機	搾乳	自宅敷地	搾乳作業中、ミルカの修理中
2	畜産	人の転落・転倒	トラクタ	トラクタ	収穫	牧草地	牧草刈取中、直進作業のため夕運転席からボンネットに墜
3	畜産	荷役・運搬	スキッドステアローダ	スキッドステアローダ	運搬	自宅敷地	スキッドステアローダで、内部の品質を確認した後、急強打した。
4	畜産	家畜との接触	家畜	牛	繋ぎ飼い牛舎	自宅敷地	パドックの中に入って、出た牛が走ってきたので、逃げ
5	畜産	家畜との接触	家畜	牛	繋ぎ飼い牛舎	自宅敷地	牛がパイプラインミルカの二牛が尻を振って被災者の足を踏
6	畜産	突き刺し	用具（その他）	サイレージフォーク	牛床清掃	繋ぎ飼い牛舎	牛床の敷料をサイレージフォークで取り、その拍子に、持っていき
7	畜産	家畜との接触	家畜	牛	牛の移動	自宅敷地	分娩を終えた初産牛にモクモクとした。引き縄を持ったまま

事故形態、機械用具名称で絞込

個別報告pdfを表示

Data 事故事例検索

POINT 農作業事故の事例と原因を知り、具体的な対策につなげましょう

（注意）本コンテンツのご利用にあたっては、下の【使い方】に示したご利用規約をご確認の上、全ての条項に同意していただく必要があります。

農作業事故の多くは、いくつかの原因が重なって起きています。ここでは、実際の事故事例について、詳細調査を行い、事故の原因を、(1)被災者、(2)機械・用具等、(3)作業環境等、(4)被災者以外の人（または牛等）、(5)安全管理体制等に分類した結果を紹介します。

他産業では、毎日、朝礼を行い、全員で作業の段取りの確認、各作業に潜む危険の洗い出しを行う等、安全のための取り組みが徹底されています。単なる注意喚起に留まらず、危険源を把握し、改善することができ

ます。少しでも皆様の安全作業につながれば幸いです。

※本コンテンツの背景および詳細については[こちら](#)（PDF）をご覧ください。

※各事故事例の内容について、さらなるご知見やアイデア等がありましたら、[こちら](#)に記載のメールアドレスまでご意見ください。

【2019年5月】試行版を公開しました（試行版は内容や構成等が予告なく変わる可能性があります）。

【2020年5月】一部改良と事例追加を行い、本公開を開始しました。

No	作目
1	全作目
2	畑作
3	水田作
4	果樹
5	花き
6	畜産
7	その他

【使い方】

ご利用前に必ず[ご利用規約](#)（クリックまたはタップでPDFを表示）をご確認ください。本コンテンツのご利用により、本利用規約の全ての条項を遵守することに同意したものとみなします。

- 表から各作目をクリックまたはタップすると、それぞれの作目に関連する事故事例の個別調査報告が一覧で表示されます。
- 一覧の上にあるプルダウンメニューから、さらに「事故形態」「機械用具名称」で事故事例の個別調査報告の絞り込みができます。
- 「機械用具名称」では大まかな分類が表示されます。各表示に含まれる機械の詳細は[こちら](#)（PDF）で確認できます。
- 事故原因等の詳細な調査・分析結果については、それぞれの「個別報告No.」をクリックまたはタップするとPDFで確認できます。

（現在200事例、今後も追加予定）

101 畑作

収穫機（野菜）／巻き込まれ

ポテトピッカで収穫作業中、茎よけローラに茎葉が引っかかっていたので、隙間から手袋をした右手を入れて取り除こうとしたところ、茎よけローラに手首まで巻き込まれた。

1. 事故の概況

・諸条件及び背景

ポテトピッカ（使用年数20年、図1）でパレイショの収穫作業を行っていた。パレイショと茎よけローラと一緒に拾い上げられ、茎よけローラ（図2）に茎葉が引っかかっていた。

・事故の発生とその経緯

茎よけローラに設けられていたガードと搬送ローラの隙間（100mm）から、薄手のゴム手袋を着用した右手を入れ、引っかかった茎葉を取り除こうとしたところ（図3）、茎よけローラに手首まで巻き込まれた。

年齢・性別：60代前半（事故当時）、男性
経営内容等：畑作・専業、家族経営
発生日時：8月下旬 午後3時45分頃
発生場所：パレイショ畑
傷病名：右手甲の擦過傷、右手首の挫滅傷

2. 救命・治療

作業を中断し、119番通報した。30分後にレスキュー隊が到着するまで、共同作業者がバールで茎よけローラの隙間をこじ開けて血流を確保した。その後、レスキュー隊が茎よけローラの駆動チェーンを切断し、ローラ間隔を広げて救出し、病院に搬送した。治療を受け、表面上は回復したが、しびれが半年以上続き、事故後1年を経過した調査時点でもむくみがあり、握力が低下したままとなっている。

3. 事故原因

1) 被災者に関連する要因 人

- 機械を動かしたまま、危険部位に手を入れてしまった。
- 体調は問題なかったが、収穫シーズンが始まったばかりで気忙しく、他の仕事のことも考えながら作業を行っていた。

2) 機械・用具等に関連する要因 機

- 茎よけローラの周囲にはガードが設けられているが、ガードの隙間が広く、危険部に近づきやすかった。
- 茎よけローラに異物が挟まっても、簡単な操作で止めることができないため、機械を止めた状態でも異物が挟まっていた。

3) 作業環境等に関連する要因 環

- 茎葉が畝の上に残っており、パレイショと一緒に回収された。

4) 被災者以外の人に関連する要因 人

- レスキュー隊の到着までの間、共同作業者が茎よけローラをバールでこじ開け、症状の悪化を防いだ。

概況

救命・治療

事故原因
(被災者、機械・用具等、
作業環境等、被災者以外
の人、管理体制)

地域で起き得る
類似事故の原因・
対策事例が探せる

事故後の対策・
推奨する対策

事故機や現場の
状況図

- いた。
- 安全管理体制等に関連する要因 法
 - 機械を止めずに危険部位に接近する危険性が十分に認識されておらず、周囲からの働きかけも十分でなかった。
 - 事故防止に向けた対策
 - 事故後にとられた対策
 - 茎よけローラ等に異物が詰まるたびに事故を起こしている。人法
 - その他推奨する対策
 - 慌てて作業することがないよう、余裕を持った作業計画を立てる。法
 - より安全な機械開発や機械利用に向けた課題
 - 表示による注意喚起に頼らず、危険部位に手が触れないガードを設ける。機
 - 異物が挟まった際に、機械を止めても容易に取り除くことができる構造にする。機
 - 事故機の状況

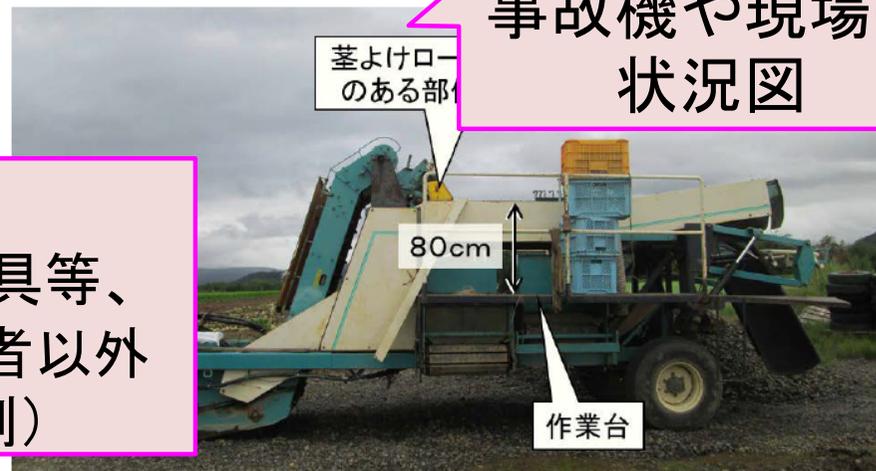


図1 事故機外観

活動を行う前に、必ず保険に入りましょう

- 共同活動を行う際には、必ず**保険**に入りましょう。近隣の保険会社に相談してみましょう。
- 活動日の1～2週間前までに手続きが必要なので、早めに参加者を決めるようにしましょう。
- 1日あたり数十円～数百円のものまで様々な保険があります。保険料は、多面的機能支払交付金による支援の対象になります。

活動前日までに、緊急連絡先の確認

- 活動中の事故を未然に防止するため、活動場所の危険箇所（急な崖、狭小地、急流の水路、危い、危険物の除去や危険物の搬出）を確認しましょう。
- 参加者の年齢、体力、作業内容などに応じて、適切な作業分担・配置を立てましょう。
- 緊急時に備え、**緊急連絡先**を確認しましょう。
- 緊急連絡先の確認
 - ・ 最寄りの医療機関（複数）
 - ・ ご家族の連絡先
 - ・ 保険会社



活動を行う前に、必ず保険に入りましょう

- 共同活動を行う際には、必ず**保険**に入りましょう。近隣の保険会社に相談してみましょう。
- 活動日の1～2週間前までに手続きが必要なので、早めに参加者を決めるようにしましょう。
- 1日あたり数十円～数百円のものまで様々な保険があります。保険料は、多面的機能支払交付金による支援の対象になります。

活動に当たっては、参加者一人一人が事故防止の意識を持つことが大切です

- 活動当日は、事前にチェックした危険箇所等の情報を参加者全員に周知し、**注意喚起**を行いましょう。
- **声かけ**をしましょう。
- 緊急連絡表を見やすい場所に掲示したり、通報担当者が携帯するようにしましょう。

1. **現場ごと**に危険を認識し、対策の重要性に気づく

➡ 事故事例、ヒヤリ事例、改善事例の共有

2. **具体的対策**につなげる

- ① 機械、環境、方法、人に潜む危険を洗い出す
- ② 危険を取り除く、改善する、ルールを作る
- ③ ルールに従って作業してみる
- ④ ルールの不具合を改善して、**再度やってみる**

➡ 歩みを止めないこと、済んだ気にならないこと
地域、活動団体一体で「安全第一」を共通認識に

安全宣言を作成してみませんか

保全活動の一つとして集まった時に
具体的な改善案やルールを話し合っ**て作成**して、**実行**してみましよう

例えば・・・

- ・作業前に(現場確認を兼ねて)ゴミ拾いをする
- ・必ず保護めがねをする
- ・飛散物防護カバーをずらさない
- ・携帯電話・笛を持つ 等



(刈払機)

私の農作業安全宣言 チェックシート

私は、身体機能測定(有効視野測定)の結果も踏まえて、特に次の点に注意して農作業を行うことを宣言します。

(以下、選択)

- 滑りやすい傾斜地には、法面途中に足場や小段を設ける。



- 作業開始前に、作業場所を確認し、構造物や切り株、針金、石、空き缶などが無いことを確認する。

- 朝露や雨で作業面が濡れていると滑りやすくなるので作業しない。

- 飛散物防護カバーなど、安全装置を装備する。



- 保護具を必ず着用する。

- 初心者には、危険認識の教育を行い、実地指導する。



都道府県名	氏名

冒頭のイラストは、2016年「農作業安全ポスターデザインコンテスト」日本農業新聞賞(奈良県 大村泰久さん)の作品です。

平成29年度農作業安全総合対策推進事業(農林水産省補助事業)(一社)全国農業改良普及支援協会 2017.7作成

事故事例から共通して学べる基本

- ・正しい使用方法を確認しておく(思い込みは×)
- ・機械と現場の事前点検、整備をしておく
- ・安全装備は必ず使う、安全な服装にする
- ・わかりやすいルールを決め、共有する
(リーダー、オペレーターの役割は大事)
- ・機械に近づく際は止めるかカバーをつける
- ・違和感や異常があったらとりあえず止める(気づく力が大事)

その上でさらに・・・

- ・現場ごとに潜む危険がないか考え、事前に対策する
- ・できる限り「気をつけよう」だけに頼らず「現場を変える」

ご安全に！

